



第7回

日本放送作家協会賞

第4回

久保田万太郎賞

昭和42年5月15日

於 帝国ホテル・孔雀の間

社団法人 日本放送作家協会

第七回日本放送作家協会賞受賞者

最優秀番組賞 「現代の映像」

(NHK)

演出者賞

テレビ部門 今野 勉

(TBS)

ラジオ部門 田辺 春夫

(NHK)

男性演技者賞 中村 錦之助

女性演技者賞 佐藤 オリエ

(俳優座)

大衆芸能賞 獅子てんや・瀬戸わんや

CM作品賞 バイロット萬年筆株式

新人脚本賞 渡辺やえ子「町」「バラのとげ」

同 蕪木利代「賽の河原の鬼ン婆」

第四回久保田万太郎賞受賞者

高橋 玄洋 「いのちある日を」

小野田 勇 「おはなはん」

(NET)

(NHK)



第七回日本放送作家協会賞選考委員(五十首順)

- | | | |
|--------|--------|---------|
| 阿木 翁助 | 伊藤 海彦 | 猪俣 勝人 |
| 伊馬 春部 | 岩間 芳樹 | 植草 圭之助 |
| 上野 一雄 | 内村 直也 | 梅田 晴夫 |
| 江上 照彦 | 大垣 肇 | 大林 清 |
| 岡田 山仁 | 岡本 愛彦 | 香住 春吾 |
| 片岡 薫 | 門川 美代子 | 金貝 省三 |
| 金田 達夫 | 狩野 新 | 川崎 洋 |
| キノトール | 神津 友好 | 阪田 寛夫 |
| 柴 英三郎 | 菅原 卓 | 鈴木 みちを |
| 田井 洋子 | 高橋 辰雄 | 玉川 一郎 |
| 寺島 アキ子 | 寺田 信義 | 寺山 修司 |
| 長沖 一 | 中川 明德 | 名和 青朗 |
| 西島 大 | 長谷川 幸延 | 早坂 暁 |
| 藤本 義一 | 北条 誠 | 松浦 健郎 |
| 宮田 達男 | 村田 修子 | 茂木 草介 |
| 盛 善吉 | 矢代 静一 | やなせ たかし |
| 山下 与志一 | 若尾 徳平 | 和田 矩衛 |

最優秀番組賞

「現代の映像」

NH K

地味な努力が結実

江上 照彦



日本放送協会社会番組部制作
企画・副部長 鷲田幸雄 スタ
ッフ・渡辺泰雄ほか十三名。
昭和39年4月スタート、4月
11日現在で一週一週目とな
る。
企画意図は、社会問題を情
況や人物を追跡して掘り下げ
るほか、ニュースドキュメン
ト文明批評の面にも新分野を開
く本格的なドキュメンタリー
番組。代表的なものに「ベ
トナム帰休兵」「錆色の海」「解
体」「放牧農民」「ガンと市民」
などがある。写真は「仏壇と
の対話」の一場面。

数多いテレビ番組の中から最優秀番組賞をえらぶというのは、なかなか容易でない。殊にドラマとかドキュメンタリーとかいうふうにはジャンルを異にしたものの優劣の比較はむずかしいのだから、論議はふつとこうしたものの、結局これが筆頭に推されたのはなぜか？この番組は、同じNHKのかつての日本の素顔の系譜につらなるものだ。とはすなわち、いわゆるアクチュアリー・ドキュメンタリーということだが、そのようなものとして、社会的現実というシリアスな題材をシリアスに追求して、そこに何かを発見し解釈し示唆するという、ふだんの地味な努力が実ったものというほかはない。制作の姿勢は正しいし、真実には細心の注意と尊敬が払われており、すなおな品の良い格調も一特長である。総体として、この種プログラムの典型として第一等に格付けされたことはもちろん、他のドラマ番組の競争をも圧倒した点に現代の映像の底力がうかがわれる。



今野

勉 TBS



東京放送テレビ編成局第二演出部。
昭和11年4月秋田に生れ、主として北海道で育つ。東北大文卒。
リ太陽をさがせリシリーズがモンテカルロ芸術祭に出品されリ土曜と月曜の間リがイタリア賞を受賞した。その後二年間リ七人の刑事リを演出、小劇場用の脚本も書く。
杉並区大宮前六一四五三一―五。

今野勉への期待

岡本愛彦

テレビドラマ、或いはテレビ的な表現の未来の可能性を期待する我々にとつて、今野勉の名前は一つの夢である。今野勉は、TBSのドラマ・ドキュメンタリーを支えるAd・AグループVの中の前衛であり、彼の創り出す一作一作ごとの鮮烈な映像は、常にテレビ界全体に強い衝撃を与えつづけて来た。

そのことは、先年イタリア賞を受賞した彼の演出作品「土曜と月曜の間」が如実に示しているのだが、こうした特プロ以外に、彼が昨年「七人の刑事」の中で企画し演出したA私刑Vハ波止場Vハされど隣にVその他の中でも、常に大胆に既成のドラマツルギーに挑戦し今野勉の特異な思想と空間を創造し訴えつづけた。日常番組の中で常に前衛であり、常に日常的思考に衝撃を与えつづける事は、殊に民放では困難なことである。その努力と成果に対して演出者賞が与えられることは、極めて意義深いものがあると考ええる。



田辺春夫 NHK



日本放送協会芸能企画室。
昭和5年福岡に生まれる。早稲田大学第一文学部芸術科卒。昭和28年NHK入社32年名古屋局に勤務時からラジオドラマを手がけ「黒い水」「松」「温泉由来記」(以上名古屋)「犬吠崎」「能登まんだら」「傷痕」「飛騨は雪」「明日香のしらべ(ステレオ)」FM名作劇場「落日」「防風林」などがある。

貴重なネバリ

山下与志一

たとえば伊賀在住の作家岸宏子さんとの「飛騨は雪」に、彼はその企画から放送まで三年をかけた。ことしの海外ドラマ特集も、資料あつめから制作まで半歳はかかっている。よくネバる人である。福井の局を振りだしに、名古屋、東京と十五年間ラジオドラマ一本に打ちこんできた。FM放送の担当になつてからも、ステレオ・ドラマ班の拡充にそのネバリを発揮している。

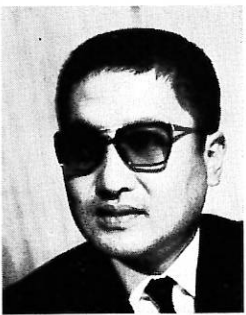
良き先輩、同僚に恵まれたことは勿論だが仕事を通じ、その才能を発揮した地方作家、劇団員は、彼の今回の受賞を誰よりも喜んでることだろう。

伊勢湾台風に取材したドキュメンタリー・ドラマ「黒い水」(CK制作)も、歴史に残るものだ。

彼は今春企画部に転じたが、新しいラジオドラマの強化と発展の望まれる今日、その活躍が期待される。あとにつづく演出陣には、上野、沖野、竹内といった俊鋭が火をつくものとしてひかえている。

おめでとう田辺くん!

中村錦之助



昭和7年東京生れ。本名、小川錦一。屋号、播磨屋。昭和二十八年歌舞伎界より映画界に入る。テレビは昭和四十一年九月NETテレビ錦之助ドラマ集りで初出演。「暗闇の丑松」「伊勢伊勢守異聞」「生きていた石松」のち。同年十月より、TBSテレビ「真田幸村」に出演、現在に至る。港区芝三田台町二ノ八。

テレビジョンの英雄

伊馬 春部

舞台や映画ですでに一家を成している俳優がテレビで好成果をあげたとて、それは当然のこととして、賞の対象などからは話題外とされる風潮が、なくもなかった。嘗つての尾上松緑氏や柳永二郎氏などの場合がこれに当てはまる。中村錦之助氏が今回この弊を打破したことは、まことに喜びに堪えない。なんであるうとエエものはエエのである。この数箇月ほど、私がテレビを見たことはない。それは自動車事故で入院したからだがちようどそのとき「真田幸村」が始まつたばかりであつた。脚本と演出にも感心したが、錦之助氏の野性味あふるるダイナミックな演技にはこと圧倒された。そして私はわが錦ちゃん茶の間の間のみならず、病棟の勤労女性たちにも大人気のあるのを知つたのである。わが病室が各部屋からのご婦人見物客で満員になる率は、その時間が最も高かつた。そのとき私の心はもうきまつたようなものだつた。アンケートにも、迷わず中村錦之助の五文字を喜したところ、その通りになつた。こんな嬉しいことはない。シリーズものの活躍も加味されての栄冠だが、ほんとにおめでとう！

どうか、いつまでもブラウン管の英雄でももらいたい。

佐藤オリエ



昭和18年東京生れ。鳴友学園高校卒。俳優座養成所第13期生、俳優座所属。初舞台は「ザ・パイロット」、テレビ出演は「ひとりっ子」、「シオノキ劇場」「刑事」「いつかある日」など。フジテレビ「若者たち」ではただ一人の女性レギュラー出演者として活躍した。杉並区永福町四三〇。

あふれんばかりの新鮮さ

寺田 信義

受賞発表の日の東京新聞(四月十八日付)紙上で彼女はこう語っています。

「受賞は率直に言って非常にうれしい。しかし、私個人への授賞ではなくて番組み全体が賞を受けたものだと思います。レギュラーは私を除いて全員、男性。紅一点の私が代表してもらつたようなものです……。(途中省略)……重ねていゝますが、私個人への授賞ではありません。」

選考委員として推選した僕はうーむと唸り、ほんとに推選してよかったと心から思いました。

最近の若い女優さんで、こんな立派な言葉を吐ける人が何人いるだろうか? 「若者たち」という番組の中で生き生きと動き、画面にあふれんばかりの新鮮さをみせた彼女、決して女優らしくない彼女、そして一回ごとに成長をみせてくれた彼女……。だからこそ、こんな素晴らしい言葉が吐けるのだし、眼を障るようなフレッシュな演技で今後への期待を一段強かきかたてられるのだと、推選したあとで逆に僕が教えられ、励まされたような気持になつた次第です。

大衆芸能賞

獅子てんや
瀬戸わんや



てんや師は本名佐々木久雄、大正13年東京生まれ。丸の内警察署捜査部長を辞して内海突破師に入門。
わんや師は本名妹尾重夫、大正15年岡山生まれ。大阪市役所吏員を経て、同じく内海突破師の門に入る。
昭和27年コンビを結成。昭和32年第一回NHK漫才コンクールに第一位となり、現在、ラジオ、テレビ、ステージに多角的に活躍している。山崎事務所々属。

工夫と精進、そして前進

玉川 一郎

今回、大衆芸能賞が漫才の獅子てんや・瀬戸わんやのコンビに授賞されたのは寧ろ遅きに失した感じさえあり、15年前にコンビを組み、そしてNHKの第一回漫才コンクールに優勝したのが、すでに10年の昔である。

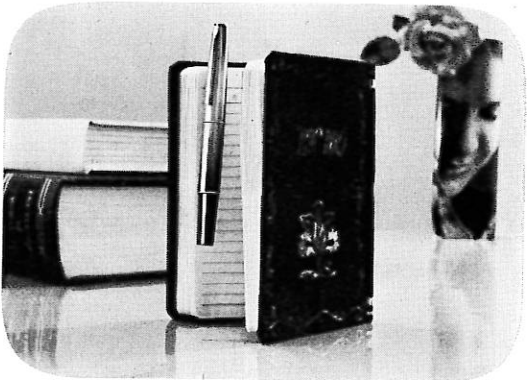
爾来、常に工夫と精進を重ね、この両三年来の演芸ブームといわれる気運に際しても、マンネリに陥ることなく、新しい笑いの旋風を捲き起していることは、世人の等しく認めるところである。

歴史的にも上方漫才に水をアケられていた東京漫才のためにも大いに気を吐いていることも亦、世人の認めるところである。

停滞するところなくつねに前進するこの将来性にも敬意を表する次第である。

CM作品賞

パイロット万年筆株式会社



企画 パイロット万年筆株式会社

制作 株式会社電通

筆記具の総合メーカーとしての態度をCMに反映させ、消費者の側に立って、常に明るく健康的なタッチを基本ベースにして、信頼され親しまれるCMを創ってゆきたいという同社の考え方は、このパイロット・シヨートをはじめ、パイロットのすべての商品CMに表現されている。国際的にも日本の代表的メーカーとなった同社に対する消費者の高い信頼も常日頃のこの態度から得られたものといえよう。

創立大正7年1月。資本金12億円。
所在地 中央区京橋二ノ七。

よい商品、よいCM

梅田 晴夫

伸びたりちぢんだり、というコマーションャルソングは、うちの二才になる女の子もまわらぬ舌で口吟むほど多くの人々に親しまれている。

CFには創意と芸術性と、そしてドラマ性が必要であることは言うまでもないが、その前にCFはなによりも「真実」を伝えるものでなければならぬ。

その意味で常に業界のバイオニアとして、新しいアイデアによる新製品開発を行っているパイロットが、例えば独創的なキャップレスやシヨートを宣伝する場合には「ハウソ」のつきようがないわけである。

つまりよい商品を創るということが、すなわちよいCFを創り出すなによりの基礎だということは今回の受賞作品は教えているといつてよいだろう。

私はここで更めて「アメリカの広告人の言う「Difference makes Difference」(商品の相違点が売上高の相違を作り出すの意味)」という言葉をかみしめる。

新人脚本賞

渡辺やえ子

「町」「バラのとげ」



昭和2年東京生まれ。日本女子大学卒。
外国映画雑誌「スタア」の編集・翻訳部員を経て、結婚後外国テレビ映画の翻訳・日本語版台本の作家となる（「ドビーの青春」「サーフサイド6」「逃亡者」「コンバット」など）。
昨年、NHKの公募テレビドラマに入選。以後、オリジナル・ドラマを書いている。
杉並区阿佐谷北三六一〇

願いをこめて

寺島アキ子

渡辺やえ子さんのおつきあいは、渡辺さんが額田やえ子というペンネームでやつておられた翻訳のお仕事を著作権問題で扱った時からです。

優しいけれどしんの強いかただなというのが、その時の印象でした。

渡辺さんが、劇作家額田六福さんのお嬢さんだと知つたのもその時でした。

その渡辺さんが、NHKの脚本募集に応募され、入選されたことを新聞紙上で知つて、翻訳家として一家をなしておられるのに、新人にまじってドラマ脚本を書かれた勇氣と努力に対して、ひそかに拍手を送つたものです。今年、新人脚本賞が新設されるときまつた時から、私は渡辺さんを推そうときめていました。

協会には、翻訳だけではなく、構成、演芸などのお仕事をしておられる会員のかたが大勢いらっしゃいます。そのかたたちにも、いいドラマを書いていただきたいという願いをこめて。

新人脚本賞

蕪木利代

「賽の河原の鬼ン婆」



本名、蕪木理代子。
大正8年群馬県生まれ。昭和15年日赤女子専門学校卒業後中文に従軍。終戦まで病院船などに勤務。
昭和39年「放送作家教室」第七期を修了。昭和41年度文部省芸術祭公募ラジオドラマ部門で芸術祭賞を受賞。
現在は家庭の主婦。
川崎市百合ヶ丘三二二六。

喝采の辞

猪俣勝人

蕪木利代、主婦四十七才（大学生の子あり）、放送作家教室第七期卒業生、文部省芸術祭当選、題して「賽の河原の鬼ン婆」。

新人脚本賞の選出に当つて、われわれの知るところは以上にすぎなかつたが、この一作には、新人賞に価する要素が豊かにあふれていると信じて、敢えて強く推薦した。

新人にとつて最も大切なものは、なんと云つても、新鮮さであり、将来への期待である。その点この作者は、大胆な発想と、素人らしい清新な筆力で、既成作家にないみずくしい魅力を示してくれた。而も、ラジオ脚本であるにも拘らず、そのままテレビドラマにも通用する適確な具象性を備えていることも、この人の才能の並々ならぬ豊かさを感じさせる。安心して喝采をおくるゆえんである。

刮目して第二作を待つ。

久保田万太郎賞

大
 橋
 本
 田
 久
 保
 田
 万
 太
 郎
 賞

久
 保
 田
 万
 太
 郎
 賞

久保田万太郎賞

- 第1回 (39年)
毛利恒之
「十八年目の召集」
寺山修司
「犬神の女」
- 第2回 (40年)
茂本草介
「兎追いし」
「ニューヨークの日本人」
「逃亡者」
- 第3回 (41年) 該当なし

受賞者一覧

日本放送作家協会賞

第1回

- 企画賞 「日本の素顔」(NHK)
- 演出者賞 せんぼんよしこ (NTV)
- 男性演技者賞 松村達雄
- 女性演技者賞 黒柳徹子
- スポンサー賞 東京芝浦電気株式会社
" 東芝商事株式会社
- TRG賞 和田勉 (NHK)
- サンキュー賞 文化放送本社受付一同
" 館野淑子 (TBS 受付係)

第2回

- 企画賞 「兼高かおる世界の旅」(TBS)
- 演出者賞 山田智也 (ABC)
" 大坪都築 (文化放送)
- 男性演技者賞 ハナ肇とクレージーキャッ
ツ
- 女性演技者賞 池内淳子
- スポンサー賞 株式会社資生堂
" エスビー食品株式会社
- TRG賞 「娘と私」番組関係者(NHK)
- サンキュー賞 東京新聞ラジオテレビ欄

第3回

- 企画賞 中川忠彦 (NHK)
- 演出者賞 田甫一郎 (NHK)
" 橋本信也 (TBS)
- 男性演技者賞 芦田伸介
- 女性演技者賞 大空真弓
- スポンサー賞 三共株式会社
- TRG賞 「夫婦百景」スタッフ (NTV)
- サンキュー賞 東京放送劇団
" ニッポン放送効果班

第4回

- 企画賞 大映株式会社テレビ室
- 演出者賞 八橋卓 (NET)

- 演出者賞 山口淳 (NHK)
- 男性演技者賞 藤田まこと
- 女性演技者賞 中村メイコ
- 大衆芸能賞 古今亭今輔
- CM作品賞 セイコー企業CFの製作スタ
ッフ
" スズキ自動車工業CFの製作
スタッフ
- スポンサー賞 近畿日本鉄道株式会社
- TRG賞 梅本重信 (NHK)
- サンキュー賞 「チロリン村とクルミの木」
関係者一同

第5回

- 企画賞 「風雪」(NHK)
- 演出者賞 久野浩平 (RKB毎日)
" 「シルバーグレーの空間」演出
グループ (ニッポン放送)
- 男性演技者賞 今福正雄
- 女性演技者賞 南田洋子
- 大衆芸能賞 牧伸二
- TRG賞 「おかあさん」(TBS)
" 「山本富士子アワー」(フジテ
レビ)
- CM作品賞 「アイデアル」
- サンキュー賞 「オヤカマ氏とオイソガ氏」
(文化放送)

第6回

- 企画賞 「日産スター劇場」(NTV)
" 「日本の謎」(毎日放送)
- 演出者賞 岡山尚幹 (フジテレビ)
- 男性演技者賞 長門裕之
- 女性演技者賞 小山明子
- 大衆芸能賞 「お笑い三人組」関係者 (N
HK)
- 特別賞 「FM名作劇場」(NHK)
" 「木島則夫モーニングショー」司
会者トリオ (NET)
- CM作品賞 「文明堂豆劇場」文明堂
- サンキュー賞 「お天気ママさん」(TBS)

久保田万太郎賞

高橋玄洋

「いのちある日を」



昭和4年松江市に生まれる。早稲田大学国文科卒。早大在学中より北条秀司氏に師事。日本演劇協会事務局を経てNETテレビに勤務。昭和37年退社後、創作活動に専念。「傷痕」「アンザイレン」「生きて愛して死んだ」「妻の日の愛のかたみに」「判決」「おかあさん」など数多くの作品がある。所沢市緑町二ノ四新所沢団地九七―七。

集大成

阿木翁助

高橋玄洋君はテレビドラマ史上、逸することの出来ない作家である。

その作風は真摯にして堅実、つねに社会的な問題提起を含んでいる。

かつての芸術祭奨励賞作「傷痕」をはじめ数多くの傑作佳品で知られている。

昨年度NETで放送された「いのちある日を」は書き下しの連続ドラマであり、相当高い内容をもちながら、多くの視聴者に深い感銘を与えた。

いわば、高橋ドラマの集大成ともいえるべき数々の要素をもち、その迫力を見る人の心を打った。

その演劇精神が、久保田万太郎賞をおくるにふさわしいものとして、会員多数の支持を得たのも当然であろう。

高橋君の健筆を期待したい。

久保田万太郎賞

小野田勇

「おはなはん」



大正9年東京生まれ。中央大学卒。東京放送劇団、三木トリロー冗談音楽グループなどを経て放送出演の傍ら脚本を執筆。昭和30年より作家活動に専念。「勝利者」(芸術祭奨励賞)「若い季節」(南の島に雪が降る)(脚色)「往診休診」「おはなはん一代記」(37年芸術祭奨励賞)などがある。世田谷区桜一―四―二四。

作劇の豊かさ

キノトール

小野田勇さんの「おはなはん」はテレビ大衆から最高視聴率で支持され、ブームをつくった。従来のもういものは多く危険な毒を持つていたが、この「おはなはん」は毒どころか大歓迎されるべき思想を主張している。

新しい女が描かれた。おはなはんは、明治大正昭和と激変する時代に負けない。当てるくだけの意欲と冒険にみちて生きる。どんなくさるしさの中でも機智を發揮する。彼女の生きかたは、自分だけの小平和に安定しようとねがう現代女性の保守的な蒙をひらいた。

素材は林謙一さんの六ページの随筆「おはなはん一代記」。小野田勇さんはここから創作し昭和三十七年に芸術祭奨励賞と第一回NHK脚本賞をうけた。さらに豊かに創作し帯ドラマ化したのが今回の「おはなはん」だ。

小野田勇独特の下手にシンコクぶらぬ作劇で、軽妙な明るさのうちにきちんと思想が語られている。「おはなはん」は、われわれテレビ大衆の記憶にながくのこる傑作である。

われらの

月刊雑誌発刊

のお知らせ

私たちラジオ、テレビの作家は、空間に消え去ってしまう作品にいのちを賭けて生きています。

ラッキーな再放送の場合以外、私たちの作品は永久に忘却の世界に埋没されてしまいます。

作品は私たち作家をはじめ、制作に携わるすべての人々にとって生存の証しであり、また、放送界にとっても貴重な資料である筈なのに……。

△作品を活字に定着したい、そのつみ重ねが良きデータとなり、さらに良い作品が生まれ、新人も育つのではないか▽△放送作家として当面する、さまざまな問題に対する共同研究や発言の場も欲しい、そのためにも雑誌を持ちたい▽△という声は、長い間、絶えず私たち会員の間に関わられていたのです。

このたび、協会は私たち全会員のつよい要望に応えるため、「放送作家年鑑」の刊行を月刊雑誌発刊に切り替え、協会一体となってその実現に、力を尽くすことになったのであります。

目下、九月創刊号を目標に、着

々と準備を進めています。

日本で唯一の放送作家の共同体である当協会の事業として權威ある雑誌を創り出していくために、編集スタッフを中心に、全会員六百人の愛情と情熱を注ぎ込んでいきたいと思えます。

と同時に、この雑誌は、たゞ作家だけのものではなく、放送に関する各パートの人々の発言の共同の広場ともなるべきであるという方針も樹てられました。

そのことよって、いたずらに作家だけの狭い世界に落ち込む弊をさけ、広く放送文化のために、大きく寄与する新しい性格の雑誌として発展していきたいという一

同の念願なのであります。

今日のこの機会に、当会員は勿論のこと、放送文化を担う各パートのみなさんに、この雑誌が良き方向に、健やかに成育していくため、どうか心からの御協力を御願いする次第であります。

雑誌名公募!!

右のような趣旨のもとに発刊される、われらの雑誌のために、会員はじめ、放送界のみならずから雑誌の名称をひろく募集したいと思います。

〆切 昭和四十二年五月二十五日
宛先 東京都中央区銀座西八ノ一

○ 電通西別館第四号
日本放送作家協会気付

雑誌編集委員会宛
お礼として、秀逸な名称をお寄せ下さった三名の方に対して、本誌一年分、無料贈呈させていただきます。

みんなで作る雑誌を

大垣肇

多年の念願がみのって、こんどいよいよ、協会が組合と合同で雑誌を出すことになりました。その初代の編集委員長を命じられたことは、大へんな光栄であり大へんな責任でもあるとはり切つたりおののいたりしています。雑誌発行の趣旨や経過については、植草常務の別記をお読み下されば分ります。が「放送作品の創造と普及」を太い柱として、それに加えるに「放送作家の生活権の擁護」「文化交流・友誼団体との提携」「国際交流の強化」などの実現のためのクサビとして役立ちたいもの、と願っている次第です。

編集委員は植草さん初め多士済々、大先輩の猪俣さん、編集技術ではエキスパートの宇都木さん、早坂久子さん、情熱漢中山さん、中年(?)、気鋭の盛さん、横光さんなど目白押しの壮観ですから、雑誌という名の「容れ物」を作るについては、そう心配することは

ないと思います。しかし、申すまでもなく、肝要なのは「容れ物」ではなくて中身であり、その中身の作り手は協会員、組合員の皆さん方を措いてほかには居ないのです。

苦勞して出した機関誌紙や同人雑誌が、半歳か一年でツブれてしまう場合の原因としては、第一に誌代の未納入(むろん先行き不振をも含めて)、第二に原稿(主として作品)が集まらないことが挙げられるのが常識です。こゝんど出す雑誌を、皆さんが必ず一人一冊買って誌代を完納して頂くほかに、身近の知己友人の方々を一人が一人ずつ固定読者にカクトクして下さるならば、第一の問題はなんとか解決されて行きそうです。お願いします。

作品は毎月五〜六篇、全ページの半分以上をさくつもりです。それも、なるべくならば未放送のオリジナル物を主として、誌面に常に清新の気をたゞよわせて行きたいのが編集部意向です。どんどん書いて、どんどんお寄せ下さい。創刊は八月廿日前後、準備はちやくちやくととのいつゝあります。

第七回協会賞式典委員会

(長)金貝省三

大倉徹也

大南勝彦

西条道彦

毛利恒之

安田多苗

編集

窪田耕一
もりただし